

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(239)

科学技術・大学

従来の光通信装置は単一のベンダーにて関連する機能が全て実装された一体型の光通信機器となっていた。従来の光網(レガシー光網)は通常あるベンダーの一体型の光通信装置を利用してベンダー独自の技術で構築さ

光網、災害時に迅速復旧

ネットワーク研究所・レジリエントICT研究センター・ロバスト光ネットワーク基盤研究室主任研究員 徐蘇鋼

2002年東大大学院博士課程修了。02年早大国際情報通信研究センター助手。05年より現職。レジリエントな光ネットワーク技術の研究開発に従事。博士(工学)。



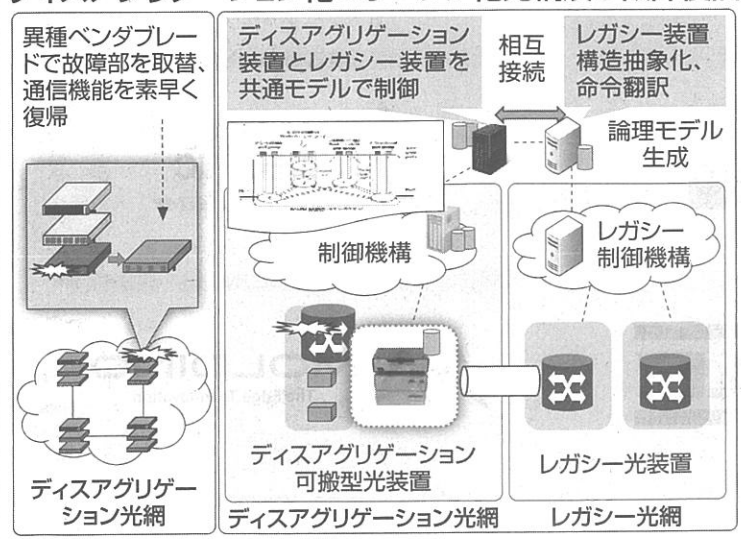
れ、そのベンダーに強を組み合わせる最適な後、ディスプレイゲーションシステムを構築するため、レガシー光網のというディスプレイゲーション方式、さらには緊急復旧では製品の在庫不足があるだけで復旧ができなくなるリスクが高くなる。

この問題は大規模災害時に深刻になる。近年、単一ベンダーの一体化された光装置を機能ごとに分割し、異種ベンダー製品

が検討されている(図左)。この新方式では、災害時に深刻になる。近年、単一ベンダーの一体化された光装置を機能ごとに分割し、異種ベンダー製品

が検討されている(図左)。この新方式では、災害時に深刻になる。近年、単一ベンダーの一体化された光装置を機能ごとに分割し、異種ベンダー製品

ディスプレイゲーション化+オープン化光網及び故障復旧



総合研究所、KDDI総合研究所と連携し、任意の機器構成からなる一般化された光ネットワークを統合管理制御可能とする普遍的なモデル化の先行研究を展開している。今後はさらに、オープンな仕様策定にも挑戦していくつもりである。

(火曜日に掲載)